

「前」ところどころ「後」

「左利き」後日談とチンドン屋さん

前回のコラムの最後に

「私は、夕方からは左利きになります。」

と書きましたが、これに不思議な反響があつて驚いています。「アハハ！」という方と、「何のことかわからなかった、夕方から左投げの練習をするのですか？」という二通りに別れたのです。年齢によって前者はほぼ50代以上、後者はそれよりも若い人たちでした。ということは、この「左利き」は死語の部類に入るのでしょうか。

もちろん意味は「酒好き」や「酒飲み」のことで、私は単なる「呑兵衛」ですから、左右話題の最後に日常を書いたわけです。しかし残念ながらシャレにならない、落ちないオチだったようです。

蛇足ながら由来は、江戸時代の大工が右手に金槌、左手に「ノミ」をもって切り込みを入れていたため、転じて、左手を「ノミ手」⇒「飲み手」⇒「呑兵衛」となったそうです。語源は知らなくても、意味と使用方法はみんなが知っていると思っていましたが、ここでさらに「ノミとは何ですか」と問われては万事休すです。

先日、札幌駅前通りで久しぶりにチンドン屋さんに遭遇しました。ポーズを決めてくれた画像を周りに見せながら、「懐かしいチンドン屋さんが歩いていたよ」と話したところ、再びある年代からは「そもそもチンドン屋さんとは何ですか」との反応が返ってきました。



昭和時代、駅前通りには多くのパチンコ屋さんがあり、新台入れ替えの度にチンドン屋さんが出て賑やかに呼び込みをしていたものです。今回は、狸小路2丁目の「狸 comichi」なる商業スペースの開業を触れ回っていて、昭和っぽい狸小路との取り合わせにうれしくなっていたのですが。

時間の「前」、「Back」も

言葉の使い方以前から気になっていたことがあります。前代表や先代社長といえば過去の人ですが、前進や先端産業というと未来に向かってるように思います。同じ言葉なのになぜか時間的に全く逆向きの意味になり、気になっていました。

最近、勝俣鎮夫著「中世社会の基層をさぐる」に出会い、目からうろこが落ちました。

日本の中世社会では、過去は見えているけれど、未来は全く見えない、つまり、背中向きで後ろに進むと考えると、過去はどんどん見えてきて、どんどん遠ざかっていくけれど、未来はいつもまでも見えない。つまり、目の前は、今始まったばかりの最新の過去のことだったのです。その時代では漢字の「先」、「前」は当然過去を表していました。ところが戦国時代ごろから、顔を180度回して未来へ向けた「マエ」が現れるのだそうです。「目サキ」は直近の未来をも意味するようになり、「先」も「前」も現在のように新旧混じっての意味で使われるようになったそうです。時間認識あるいは歴史認識が、戦国時代から、未来に向けるダイナミックな意識に変化したことが感じられます。

さらに同書によると、堀田善衛が1985年の大ヒット映画「Back To The Future」というタイトルに興味をそそられ、調べてみたところ「背中から未来に入っていく」という時間感覚は古代ギリシャから中世において世界に共通していたとのこと。他のエッセイと併せて出版された「未来からの挨拶」(1995)は現在絶版で、市電の「中央図書館前」で降り、バックヤードに眠る本を借り出してやっと確認できました。

最近では温故知新の意味合いで使われることも多い「Back To The Future」という言葉は、映画のタイトルとして、タイムスリップした過去から未来へ「戻る＝Back」という表現が洒落ていると思っていましたが、「背中＝Back」を知らされてみると、ハリウッドは深かったです。そして英語として絶妙なタイトルは、日本語タイトルがないのも当然ですね。

空間の「前」 山鼻西線

先端技術を活用したものをスマート〇〇と言うことが多いようですが、何か先細り感があって少し悲しげです。鼻も端と同じ感覚で物の先端部分を意味しますが、札幌の山鼻地区は藻岩山の山の端から結構広いエリアを指します。札幌市電は中心部を除くと、ほぼこの山鼻地区の外周を走っていることになります。当時の山鼻村に建てられた山鼻小学校は明治11年に開校、14年には明治天皇が行幸されています。「行啓通」という停留所名の由来です。

市電は、最盛期には全長25kmもありましたが、車優先の時代とともに廃線が続きました。この過程で分断されていた「西四丁目」と「すすきの」間が平成27年に復活して環状運行になり、現在は全長8.9km。

「すすきの」から「行啓通」方面に向かうのが山鼻線、「西15丁目」から西側を南下する路線が山鼻西線です。両方の合流地点が「中央図書館前」で、昭和62年以前は「北海道教育大学前」という名称でした。大学が北区あいの里に移転したため、その跡地に平成3年から中央図書館が新築され、停留所名も「中央図書館前」に変わりました。空間的な「前」も時間軸の上で変化していくものなのですね。

西線を冠した停留所が5か所あります。

- 西線6条、
- 西線9条旭山公園通
- 西線11条
- 西線14条
- 西線16条

これらの正式な停留所表記は「NISHISEN」ですが、昔からの札幌人はなぜか「NISSEN」と発音します。書き言葉と話し言葉は時間軸上、必ずしも同期しないようです。今でも、録音された車内アナウンスも運転手さんも「にっせん」と呼んでいます。おおらかで、いいですねえ！

